

アメリカミズキンバイとよばれる *Ludwigia decurrens* と
L. longifolia (アカバナ科) の推奨される和名

稗田真也¹・植村修二²・野間直彦³

Recommended Japanese names for *Ludwigia decurrens* and *L. longifolia*,
both of which are known as “Amerika-mizukinbai”

Shinya HIEDA¹, Shuji UYEMURA² and Naohiko NOMA³

Abstract: *Ludwigia decurrens*, sect. *Pterocaulon* (Onagraceae), has two Japanese names, “Hire-tagobo” and “Amerika-mizukinbai.” *Ludwigia longifolia* is known as “Nagaba-mizukinbai” and also as “Amerika-mizukinbai.” Thus, the Japanese name “Amerika-mizukinbai” is used for two different species. Murata (1955) named *L. decurrens* “Hire-tagobo,” and Okuyama (1957) named it “Amerika-mizukinbai;” these two names were given for *L. decurrens* contemporaneously. Tachibana (1971) was the first to use the Japanese name “Amerika-mizukinbai” for *L. longifolia*. Saiki (2016) renamed *L. longifolia* “Nagaba-mizukinbai”. Both species are described in the horticultural literature, but in at least one case photographs of *L. longifolia* have been misidentified as “*L. decurrens*” or “*L. bonariensis*”. In this paper, we propose that “Hire-tagobo” and “Nagaba-mizukinbai” be adopted as the Japanese names for *L. decurrens* and *L. longifolia*, respectively.

抄録: アカバナ科チョウジタデ属ヒレタゴボウ節植物の和名として、*Ludwigia decurrens* にはヒレタゴボウとアメリカミズキンバイ、*L. longifolia* にはナガバミズキンバイとアメリカミズキンバイが知られるように、和名アメリカミズキンバイは両種に用いられている。*Ludwigia decurrens* は、村田 (1955) によりヒレタゴボウ、やや遅れて奥山 (1957) によりアメリカミズキンバイと命名された。*Ludwigia longifolia* をアメリカミズキンバイとした最初の文献は立花 (1971) と考えられる。また、斎木 (2016) は、*L. longifolia* の和名として、新たにナガバミズキンバイと命名した。園芸の文献には両種とも掲載されているが、*L. longifolia* と考えられる写真に *L. decurrens* や *L. bonariensis* と表記しているケースもみられた。本稿では *L. decurrens* により古く、多くの図鑑類で採用されているヒレタゴボウ、*L. longifolia* にはヒレタゴボウの別名とされることが多いアメリカミズキンバイではなく、ナガバミズキンバイとすることを提案した。

Key words: biological invasions; Japanese name; *Ludwigia decurrens*; *Ludwigia longifolia*; Onagraceae; *Pterocaulon*

序文

チョウジタデ属 *Ludwigia* L., ヒレタゴボウ節 *Pterocaulon* T. P. Ramamoorthy の植物には、アメリカ大陸を原産とする5種が知られている (Ramamoorthy, 1979; Ramamoorthy and Zardini, 1987; Wagner et al., 2007)。日本では、*L. decurrens* Walt. と *L. longifolia* (DC.) H. Hara の野生化が知られている (斎木, 2016)。

Ludwigia decurrens には2つの和名が知られている。1つ目がヒレタゴボウで、2つ目がアメリカミズキンバイである。一方、*L. longifolia* の和名としてもアメリカミズキンバイが用いられていることから (立花, 1971; 1994)、近年、斎木 (2016) は *L. longifolia* をナガバミズキンバイと新称した。本稿では、*L. decurrens* と *L. longifolia* の和名について整理した。

※大阪市立自然史博物館業績第484号 (2019年12月20日受理)

¹ 滋賀県立大学大学院環境科学研究科 〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500

Graduate School of Environmental Science, The University of Shiga Prefecture, Hassaka-cho 2500, Hikone, Shiga 522-8533, Japan

² 大阪府立農芸高等学校 〒587-0051 大阪府堺市美原区北余部595-1

Osaka Nogei High School, Kitaamabe 595-1, Sakai, Osaka 587-0051, Japan

³ 滋賀県立大学環境科学部環境生態学科 〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500

Department of Ecosystem Studies, School of Environmental Science, The University of Shiga Prefecture, Hassaka-cho 2500, Hikone, Shiga 522-8533, Japan

Corresponding author: S. Hieda, oo1shieda@ec.usp.ac.jp

Table 1. A list of Japanese names of *Ludwigia decurrens* in literature.
表1. 各文献で用いられている *Ludwigia decurrens* の和名リスト.

文献	採用和名	別名
村田 (1955)	ヒレタゴボウ*	
奥山 (1957)	アメリカミズキンバイ*	
奥山 (1958)	アメリカミズキンバイ	
山中 (1966)	ヒレタゴボウ	
難波 (1967)	ヒレタゴボウ	
小松崎 (1966)	ヒレタゴボウ	アメリカミズキンバイ
笠原 (1968)	ヒレタゴボウ	
長田 (1972)	アメリカミズキンバイ	ヒレタゴボウ
斎藤 (1976)	アメリカミズキンバイ	ヒレタゴボウ
長田 (1976)	ヒレタゴボウ	アメリカミズキンバイ
植村 (1977)	アメリカミズキンバイ	
大滝・石戸 (1980)	ヒレタゴボウ	アメリカミズキンバイ
竹松・一前 (1993)	ヒレタゴボウ	アメリカミズキンバイ
角野 (1994)	アメリカミズキンバイ	ヒレタゴボウ
清水ら (2001)	ヒレタゴボウ	アメリカミズキンバイ
大場 (2003)	ヒレタゴボウ	アメリカミズキンバイ
米倉 (2016)	ヒレタゴボウ	アメリカミズキンバイ
浅井 (2016)	ヒレタゴボウ	

*: Japanese name (nov.): 和名新称

学名の変遷

de Candolle (1824) が記載した *J. longifolia* DC. は, Hara (1953) がミズキンバイ属 *Jussiaea* L. とチョウジタデ属 *Ludwigia* L. を合一したことで, *L. longifolia* (DC.) H. Hara. とされた. また, Walter (1788) は *L. decurrens* Walt. を記載した一方で, de Candolle (1828) も *J. decurrens* DC. を記載した. Munz (1942; 1961) はそれらの種を *J. decurrens* (Walt.) DC. として扱った. 後のモノグラフ (Raven, 1963; Wagner et al., 2007) やフロラ (Munz, 1965) では, *L. decurrens* Walt. として扱われた.

Ludwigia decurrens の和名

村田 (1955) は1955年に愛媛県松山市で採集された標本を *J. decurrens* (Walt.) DC. と同定し, 和名としてヒレタゴボウを新称した. 一方で, 奥山 (1957) は1954年に徳島県沖洲町 (現・徳島市) で採集された標本を *J. decurrens* DC. と同定し, 和名としてアメリカミズキンバイを新称した (文中では, 村田 [1955] を参照していない. また, 参考文献として挙げられている阿部 [1955] には, 本種は取り扱われていない). このように, *L. decurrens* (*J. decurrens*) には, 比較的近接した時期に2つの和名, ヒレタゴボウとアメリカミズキンバイが新称されている.

以降, さまざまな文献で用いられている *L. decurrens* の和名リストを, Table 1 に示す. 奥山 (1958) は, アメリカミズキンバイを採用し, 1921年に高知県で採集された標本に基づいて四国への侵入は戦前であると述べた. 山中 (1966) は, ヒレタゴボウを採用し, 高知県高知市内では戦後に確認され, 数年で急に繁茂が見られるようになり, 多いところでは開花期に田が黄色く見えることがあると報告した. また, 難波 (1967) は, ヒレタゴボウを採用し, 1962年に岡山県吉備郡高松町一軒屋 (現・岡山市) の水田での採集を報告した. 小松崎 (1966) は, ヒレタゴボウを採用し, 1966年に千葉県の印旛沼の干拓地 (京成電鉄白井駅周辺: 現・佐倉市) で確認し, 本州の関東以南の暖地にも恐らく侵入しているであろうと記述した. これに加え, 本種の花がミズキンバイ *L. peploides* (Kunth) P. H. Raven subsp. *stipulacea* (Ohwi) P. H. Raven (sect. *Jussiaea* (L.) Hoch, W. L. Wagner, & P. H. Raven [Hoch et al., 2015]) に似て, チョウジタデ (広義) *L. epilobioides* Maxim. *sensu lato* (sect. *Nipponia* P. H. Raven [Raven, 1963; Wagner et al., 2007]) (文中ではタゴボウと記述) よりもはるかに大型であること, 雄蕊の数が8でミズキンバイに近いことから, 和名としてはヒレタゴボウよりもアメリカミズキンバイの方が適していると指摘しているが (小松崎, 1966), なぜか和名としてヒレタゴボウを採用している.

一般的にどの和名を採用するかについては, 主要な図鑑の見解が強い影響力を持っていると考えられる. その後出版された図鑑には本種が掲載され始めており, 笠原 (1968) は「日本雑草図説」でヒレタゴボウを採用している. また, 長田 (1972) は「日本帰化植物図鑑」でアメリカミズキンバイを採用し, 別名をヒレタゴボウとしている. 斎藤 (1976) はアメリカミズキンバイを採用し, 別名をヒレタゴボウとして, 1975年に手賀沼 (柏市柏下) での生育を報告している. また, 長田 (1976) は「原色日本帰化植物図鑑」で先の見解を変更してヒレタゴボウを採用し, 別名をアメリカミズキンバイとしている. また, 植村 (1977) は長田 (1972) を参照したことでアメリカミズキンバイを採用し, 1976年の大阪府和泉市信太山の湿地における生育を報告し, 本種が侵略的であると考えられることから, 早期防除の必要性を指摘している. 大滝・石戸 (1980) は「日本水生植物図鑑」でヒレタゴボウを採用し, 別名をアメリカミズキンバイとして, 本州・四国の水田や池沼の水辺で雑草化して

いると記述している。竹松・一前 (1993) は「世界の雑草Ⅱ」でヒレタゴボウを採用し、別名をアメリカミズキンバイとしている。角野 (1994) は「日本水草図鑑」でアメリカミズキンバイを採用し、別名をヒレタゴボウとして、関東以西の各地に広がっていると記述している。

このように1990年代までの文献では、どの和名を採用するか、定まっていないことがわかる。齋木 (2016) は、現在の多くの文献では *L. decurrens* の和名としてヒレタゴボウが用いられているが、アメリカミズキンバイもまた別名とされていると指摘している。

2000年以降に出版された図鑑においては、清水ら (2001) は「日本帰化植物写真図鑑」でヒレタゴボウを採用し、別名をアメリカミズキンバイとして、現在では関東から九州北部に侵入しているとした。大場 (2003) は「日本の帰化植物」でヒレタゴボウを採用し、別名をアメリカミズキンバイとして、本州と四国に侵入しているとした。米倉 (2016) は「改訂新版日本の野生植物3」でヒレタゴボウを採用し、別名をアメリカミズキンバイとして、本州から九州の水田などに侵入しているとした。また浅井 (2016) は「植調雑草大鑑」でヒレタゴボウを採用している。このように、2000年代以降に出版された主要な図鑑ではヒレタゴボウを採用し、別名をアメリカミズキンバイとする見解が主流になったと考えられる。

Ludwigia longifolia の和名

立花 (1968) は本種を園芸種リストに掲載しているが、この時点ではまだ和名を表記しておらず、学名 *Jussiaea longifolia* の記述に留まっている。齋木 (2016) は、名古屋市東山動物園の記録を参照し、*L. longifolia* がアメリカミズキンバイの名で販売されている例を報告している。筆者らが知る限り、立花 (1971) が本種に和名アメリカミズキンバイを用いた最初の文献である。また、齋木 (2016) は千葉県館山市での野生化を報告すると同時に、和名アメリカミズキンバイは現在の多くの文献で *L. decurrens* の別名とされていることから、*L. longifolia* にも適用することは望ましくないと考え、ナガバミズキンバイを新称した。

両種の園芸における位置づけ

Ludwigia longifolia については、園芸の文献 (立花, 1968; 1971; 1994) に掲載されているため、園芸目的で日本に導入された可能性がある。しかし、立花 (1994) は「園芸植物大事典2」で *L. decurrens* と *L. longifolia* の両方を掲載しており、和名については *L. decurrens* にアメリカミズキンバイを採用して別名をヒレタゴボウとし、*L. longifolia* にはアメリカミズキンバイを採用している。ただし、筆者らは、*L. decurrens* を園芸利用するという情報は得ていない。これに加え、立花 (1994) では *L. longifolia* と考えられる植物の写真が *L. decurrens* として掲載している。また、それと同じ写真を、清水 (1994) は「園芸植物大事典1」で、まだ日本への導入が知られていない種である *L. bonariensis* として掲載している。なお、*L. bonariensis* (Micheli) H. Hara は、別節 sect. *Macrocarpon* (Micheli) H. Hara の種である (Wagner et al., 2007)。

このように、園芸の文献においても混乱が見られる。そもそも、チョウジタデ属は外部形態での同定が難しい分類群である。今後、国内における外来チョウジタデ属植物について、同定調査を進めていく必要があると考えられる。

結論

和名アメリカミズキンバイは、2種 (*L. decurrens* と *L. longifolia*) に用いられているため、どちらの種を指しているのかわかりづらい状況にあった。両種は、植物体も比較的大きく、花も目立つため、侵入は比較的気づかれやすいと思われる。今まで、*L. decurrens* については、新産地報告がなされてきたことから、旺盛な分布拡大が起きたことがわかるが、*L. longifolia* については、立花 (1968) の園芸種リストに掲載されていたにもかかわらず、長期間にわたって野生化は確認されてこなかった。

一方、園芸利用では、*L. longifolia* のみが用いられてきたと考えられ、*L. decurrens* の利用実態は不明だが、ほとんど用いられなかったものと考えられる。これらのことから、最近まで各現場で両種を判別する機会はほと

んどなく、和名が重複していても生物学的・園芸学的に大きな問題はなかったといえる。

しかし最近、齋木 (2016) によって *L. longifolia* の野生化が報告されたことで、特に外来生物として両種を野外で判別する必要性が高まった。また、齋木 (2016) は、*L. longifolia* をナガバミズキンバイと新称したため、*L. decurrens* にはヒレタゴボウとアメリカミズキンバイ、*L. longifolia* にはアメリカミズキンバイとナガバミズキンバイが併存する状態となった。すなわち両種には、それぞれアメリカミズキンバイ以外に固有の和名が命名されている。そこで筆者らは混乱を避けるため、和名に先取権はないが、*L. decurrens* により古く、すでに多くの図鑑類で採用されているヒレタゴボウを、*L. longifolia* にヒレタゴボウの別名とされることが多いアメリカミズキンバイではなく、ナガバミズキンバイとすることを提案したい。

謝辞

本稿の投稿にあたり、大阪市立自然史博物館の横川昌史学芸員からは、有益な助言をいただきました。記して感謝申し上げます。また本研究は、独立行政法人環境再生保全機構の環境研究総合推進費 (4-1801) の助成を受けて実施されました。

引用文献

- 阿部近一 1955. 阿波に於ける南方系植物の調査研究. 阿波の自然 2 (2) : 6-12.
- 浅井元朗 2016. 植調雑草大鑑 (第2版). 全国農村教育協会, 東京, 357pp.
- de Candolle, A. P. 1824. Rapport sur les plantes rares ou nouvelles qui ont fleuri dans le Jardin de Botanique de Genève pendant les années 1822 et 1823. Mémoires de la Société de physique et d'histoire naturelle de Genève II. 2: 125-143.
- de Candolle, A. P. 1828. Prodrômus systematis naturalis regni vegetabilis, sive, Enumeratio contracta ordinum generum specierumque plantarum huc usque cognitarium, juxta methodi naturalis, normas digesta III. Sumptibus Sociorum Treuttel et Würtz, Paris, 494 pp.
- Hara, H. 1953. *Ludwigia* versus *Jussiaea*. Journal of Japanese Botany 28: 289-294.
- Hoch, P. C., Wagner, W. L. and Raven, P. H. 2015. The correct name for a section of *Ludwigia* L. (Onagraceae). PhytoKeys 50: 31-34.
- 角野康郎 1994. 日本水草図鑑. 文一総合出版, 東京, 179pp.
- 笠原安夫 1968. 日本雑草図説. 養賢堂, 東京, 518pp.
- 小松崎一雄 1966. ヒレタゴボウ本州 (千葉県) に出現. 植物採集ニュース (28) : 31.
- Munz, P. A. 1942. Studies in Onagraceae XII: A revision of the New World species of *Jussiaea*. Darwiniana 4: 179-284.
- Munz, P. A. 1961. *Jussiaea* L. Lundell C. L. ed. Flora of Texas 3. Texas Research Foundation, Renner, pp. 208-214.
- Munz, P. A. 1965. North American Flora; series II, part 5, Onagraceae. New York Botanical Garden, New York, 231 pp.
- 村田源 1955. 新しい渡来植物. 植物分類・地理 16: 90.
- 難波早苗 1967. 岡山県のホソバナアマナとヒレタゴボウ. 植物採集ニュース (30) : 44.
- 大滝末男・石戸忠 1980. 日本水生植物図鑑. 北隆館, 東京, 318 pp.
- 大場秀章 2003. アカバナ科. 清水建美編, 日本の帰化植物. 平凡社, 東京, pp. 143-149.
- 奥山春季 1957. 第20回腊葉公開陳列会出品目録 (昭和31年3月1日-4月15日). 自然科学と博物館 23: 136-156.
- 奥山春季 1958. 新帰化植物. 自然科学と博物館 25: 15-16.
- 長田武正 1972. 日本帰化植物図鑑 (第3版). 北隆館, 東京, 254pp.
- 長田武正 1976. 原色日本帰化植物図鑑. 保育社, 大阪, 425pp.
- Ramamoorthy, T. P. 1979. A sectional revision of *Ludwigia* sect. *Myrtocarpus* s. lato. (Onagraceae). Annals of the Missouri Botanical Garden 66: 893-896.
- Ramamoorthy, T. P. and Zardini, E.M. 1987. The systematics and evolution of *Ludwigia* sect. *Myrtocarpus* sensu lato (Onagraceae). Monographs in Systematic Botany from the Missouri Botanical Garden 19: 1-120.
- Raven, P. H. 1963. The Old World species of *Ludwigia* (including *Jussiaea*), with a synopsis of the genus (Onagraceae).

Reinwardtia 6: 327-427.

- 齋木健一 2016. アカバナ科の新帰化植物, ナガバミズキンバイ (新称) が千葉県館山市に帰化. 植物研究雑誌 95: 314-316.
- 斎藤吉永 1976. チョウジタデの花弁の数. 植物採集ニュース (86) : 31-32.
- 清水建美 1994. アカバナ科. 塚本洋太郎総監修. 園芸植物大事典1. 小学館, 東京. pp. 40-41.
- 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 2001. 日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会, 東京, 553pp.
- 立花吉茂 1968. おもな水草の一覧表. ガーデンライフ (26) : 58-59.
- 立花吉茂 1971. 水草栽培と楽しみ方. 文研出版, 東京, 257pp.
- 立花吉茂 1994. ルドウィギア (属). 塚本洋太郎 総監修. 園芸植物大事典2. 小学館, 東京, pp. 3050-3051.
- 竹松哲夫・一前宣正 1993. 世界の雑草Ⅱ. 全国農村教育協会, 東京, 857pp.
- 植村修二 1977. 大阪府和泉市に侵入したアレチウリとアメリカミズキンバイ. 植物採集ニュース (91) : 90.
- Wagner, W. L., Hoch, P. C. and Raven, P. H. 2007. Revised classification of the Onagraceae. Systematic Botany Monographs 83: 1-240.
- Walter, T. 1788. Flora caroliniana: secundum systema vegetabilium perillustris Linnaei digesta; characteres essentielles naturalesve et differentias veras exhibens; cum emendationibus numerosis: descriptionum antea evulgatarum: adumbrationes stirpium plus mille continens: necnon, generibus novis non paucis, speciebus plurimis novisq. ornata. Fraser, London, 263 pp.
- 山中二男 1966. 高知県のヒレタゴボウその他の帰化植物について. 植物研究雑誌 41: 89-91.
- 米倉浩司 2016. アカバナ科. 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩編, 改訂新版日本の野生植物3, 平凡社, 東京, pp. 262-270.

